

2024年6月30日 年間第13主日 円山カトリック教会集会祭儀

おはようございます。3分間の分かち合いの奉仕をさせて頂く札幌聖心のチャプレン、聖心会の田口でございます。

「山上の垂訓」という箇所が聖書にあります。イエス様はなぜ山の上で神様のメッセージを伝えられたのでしょうか。福音書には最初、会堂で、預言書を読み、話をされたと記されていますが、徐々に会堂でなく、野外で話されるようになりました。それは建物に入りきれないほどの人々が集まってきたということもあるでしょうが、「神はすべての人を同じように愛し、罪びとも罪を悔いるなら許される」というイエス様のメッセージが危険思想とされ、会堂から締め出されたからでした。

その会堂の運営責任者である会堂長ヤイロが、正統派から異端視されていたイエス様の前にひれ伏したのです。

マルコの福音書はイエスについて「この方はどなただろう」という問いが何度も出てきます。そして、最後にその問いに応えるのは十字架のもとで、「まことにこの方は神の子であった」という百人隊長の言葉です。

幼い娘のために、有力者である自分の権威や宗教的な偏見も捨てて、イエスの前に膝まづく会堂長の姿を見て、人々は、イエスのことを「この方はどなただろう」と不思議に思ったかもしれません。しかし、大切な娘が死にかけているという危機に瀕したヤイロには、イエスがどんな方か分かったのです。娘を想う愛が、ヤイロをイエスのもとに導きました。

もう一人、イエスがどんな方かを本能的にわかった人がいました。偶然にもヤイロの娘の年と同じ年月を、当時、穢れと恥の象徴とされた婦人科系の出血を伴う病気に苦しみ、人々に避けられ、また、助けてくれるはずの人々から搾取されて、孤独を耐え忍び、全てを失った女性でした。恥とされた自分の病気のことを、イエスに言うことすらできなかったことに、この女性の状況がいかにも絶望的であったかがわかります。

しかしイエスという方は、彼女の中にあるいのちの力を目覚めさせ、彼女はイエスに引き寄せられます。「この穢れた身で、イエス様に正面から願うことはできない。後ろから、服にでも触れれば癒していただける。」この彼女の信仰はどこから来たのでしょうか。長い間の苦しみと孤独が、かえって本当のことをはっきりと見えるように導いてくれたのでしょうか。

そして、彼女の信仰は報われ、ただちに癒されますが、イエスの癒しの力は、機械的なものではありません。パーソナルな人格と人格のかかわりの中で働く力です。イエスがご自分のいのちを削って相手に差し出す力です。それゆえ、「顔と顔を合せない」ということはできません。イエスは、力強い癒しに驚いて動転しているこの女性を探して会われ、彼女はありのままをお話することで、苦しみを過去のものとして、イエスの祝福を受けます。イエスの祝福は、闇の中にうずくまる苦しむ人々のためにこそ、神はイエスを送られたのだという温かさに満ちています。

その間、待たされたと感じたヤイロの娘の親族や、その周囲の反発やあざけりにも関わらず、イエスは、「タリタ、クム」という一言でその娘を癒し、食べ物を与えるようにとこまや

かな指示をされます。福音書の本文がギリシャ語で書かれている中で、イエスの呼びかけが、「タリタ、クム」というアラム語で書かれていることについて、バークレーは、その場で子の奇跡を目撃したペトロは、少女に呼びかけたイエスの優しさに満ちた声を終生忘れられず、福音記者のマルコにこの出来事を伝える時、イエスのお言葉をギリシャ語にすることなく、そのままアラム語で伝えたからと言っています。

私たちもイエスの呼びかけにこもる優しさに耳を傾けることができますように、イエスがどんな方かを日々発見できますようにお互いに祈り合いましょう。ありがとうございます。

Chớ gì chúng ta cũng lắng nghe lòng nhân từ của lời mời gọi của Chúa Giêsu. Bạn có thể khám phá ra người này là người như thế nào mỗi ngày. Cảm ơn bạn.